

景 [ いわたの残したい ] 観  
Iwate Landscape

西和賀町沢内 北長瀬野の清吉稲荷付近から見る和賀山塊と農村の景観



いわてデジタルマップで見る📍

[https://www.sonicweb-asp.jp/iwate/map?theme=th\\_71&pos=140.784373,39.460511&scale=3750](https://www.sonicweb-asp.jp/iwate/map?theme=th_71&pos=140.784373,39.460511&scale=3750)

■ 視点場

西和賀町沢内 北長瀬野の清吉稲荷付近

■ 視対象

和賀山塊と農村

■ 選んだ理由

北長瀬野は35年ほど前の深沢晟雄村長の時代の長瀬野集落移転事業で、県道の近くに60戸近くの新集落をつくりほとんどの家が移転しました。この景観が見える、北長瀬野の家は、全部の家が移転し、現在はその近くの田畑を耕すときに使う小屋として、使っています。そのなかの、ある家の桜の木と、その向こうに見える、

和賀山塊（一番右が和賀岳）の景観とその周りの耕された田畑などが、いい景観を作っていました。この近辺からは、和賀岳とその右の高下岳、真昼岳などの和賀山塊の山々がよく見えます。また、この集落は35年前に移転しましたので、家についていた、お稲荷さんなどがそのまま残され、35年前の景観を保っています。茅葺きの民家は残念ながら、数年前までに全て無くなりました。一つだけ、清吉稲荷という屋号の家が、教育委員会の保存家屋になり、茅葺きはトタンで保護されましたが、中はそのまま保存され、いろいろな活動に使われています。この景観の見えるところは、西和賀町沢内字長瀬野で住所のある家屋はありませんが、沢内村教育委員会の保存家屋、「清吉稲荷」の近くから見る景色です。写真にある家屋は、長瀬野集落への移転前の家、現在は作業小屋に使っています。和賀山塊はこの場所に限らず、この地域一帯で見ることができます。この写真の右の杉林の中に、堰明神があります。